

Press Release

Aug 25, 2020 | ID: 20-P031

ボルボの全てのモデルを年内に電動化へ※

ボルボ・カー・ジャパン株式会社(代表取締役社長:リチャード・スナイダース、本社:東京都港区)は、年内にボルボの全ての国内販売モデルから内燃機関のみの車両を無くし、全てのモデルをプラグインハイブリッドもしくは 48V ハイブリッドとすることで、電動化への第一段階を完了いたします。

全モデルにプラグインハイブリッドをラインナップ

XC40にプラグインハイブリッドモデルが導入されたことにより、全てのモデルにプラグインハイブリッドモデルが設定されました。また、年内にプラグインハイブリッドモデル以外の全てのガソリンエンジン車を 48V ハイブリッドモデルとすることで、国内で販売するボルボ車の電動化の第一段階が完了します。

Recharge Product Line の導入

ボルボ・カーズは、電動化を推進する象徴的位置づけとして新しいプロダクトラインとなる Recharge (リチャージ)を設定しました。「Recharge = 外部充電可能」という意味から、電気自動車(BEV)とプラグインハイブリッド車の呼称として使用されます。それに伴い従来プラグインハイブリッドモデルの呼称として使用していた Twin Engine という名称は廃止され、今後は Recharge Plug-in hybrid となります。また、電動化の次のステップとして、ボルボブランド初の電気自動車(BEV=バッテリー・エレクトリック・ビークル)となる「XC40 Recharge Pure Electric」を 2021 年内に国内へ導入する予定です。

48V ハイブリッドパワートレイン

今回各モデルに導入する 48V ハイブリッドパワートレインである B4 / B5 / B6 は、ISGM(インテグレートッド・スターター・ジェネレーター・モジュール)による回生ブレーキで発電した電力を 48V リチウムイオンバッテリーに蓄電し、エンジンの動力補助を行うハイブリッドシステムを搭載しています。エンジン本体にも改良が施され、約 90%ものパーツが新設計となり、徹底したフリクションロスの低減や CDA (シリンダー・ディ・アクティベーション:気筒休止) システムを導入し、48V ハイブリッドシステムとともに、実用域での燃費を向上させました。

ボルボ・カーズでは、今後 5 年間で電気自動車(BEV)を 5 車種導入する計画で、2025 年までに世界販売台数の 50%を電気自動車(BEV)、残りをハイブリッド車(PHEV、48V ハイブリッド)とする目標を掲げています。また、2040 年までにクライメートニュートラル企業になることを目指しており、車両の電動化のみならず、開発、生産やサプライチェーンにいたる、すべての企業活動において環境負荷を低減しサステナビリティを推進します。ボルボのコアバリューである「安全」に加え、「環境への配慮」をより強く推進することで、ボルボのブランド価値とお客様にとっての価値を最大化してまいります。

※全車電動化とは、内燃機関のみを搭載した車両はなくなり、全てのモデルがプラグインハイブリッド車、または 48V ハイブリッド車になることを意味します。

※B5 パワートレインは一部モデルで、2020 年 4 月 23 日より導入済み。

報道関係お問合せ先

ボルボ・カー・ジャパン広報部

Phone: 03-5404-8611

vcjpr@volvocars.com

Related Images



[More Images >](#)

Copyright © 2020 Volvo Car Japan Limited